

第421回 番組審議会

1. 日 時 平成19年5月15日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 13名

出席委員 10名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	橋田 純一
	委員	梅村 俊男
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	西郷 喜代子
	委員	佐藤 晴久
	委員	早瀬 藤二
	委員	増川 博之
	委員	上野 克幸

欠席委員	委員	和田 利彦
	委員	千葉 則茂
	委員	嶋村 正

社側出席者	中野 士朗 (代表取締役会長)
	矢後 勝洋 (代表取締役社長)
	石井 修平 (専務取締役)
	阿部 孝夫 (常務取締役)
	高橋 甫和 (取締役技術局長)
	鈴木 直志 (報道局専任局長)
	菊池 健 (報道局報道部主任)

事務局	青山 尚之 (編成局長)
	高橋なおみ (編成局編成部主任)

4. 議 題

1. 誠の医療を目指して 岩手医科大学薬学部開設
4月29日(日)午後4時30分～5時15分
2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・視聴者からのご意見

6. 議事の概要

社側説明

番組審議会の議題「誠の医療を目指して 岩手医科大学薬学部開設」は4月29日(日)午後4時30分～5時15分で放送いたしました。ご意見をお願い致します。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員側意見

- ・コマーシャルを含めて、ご祝儀的な番組に感じられた。岩手医大の意向が前面に出すぎていたのではないか。そのために内容的に乏しいのではないか。
- ・テーマが、薬学か、岩手医大の全体なのか、地域医療をみるのか、全国の医療か、絞り込めていなかった。
- ・移転地の矢巾町だけでなく、現所在地の内丸も取材に含めてもらった方が、地域医療とすると捉え方が良かったのではないか。
- ・岩手医大については、整備事業の全体像が把握しきれなかった。
- ・薬学部については、薬剤師を育成するのか、薬学の勉強するところなのか、絞り込めていなかった。
- ・質問点としては、学生を地域に定着させる試みを何かなされているかということをお尋ねしたいと思います。

7. 審議内容

別載のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」
(平成 19 年 5 月 22 日(火)午前 11 時 50 分～11 時 57 分放送) で、審議の概要を放送。
- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

〈議事の内容〉

事務局 番組審議会の議題「誠の医療を目指して 岩手医科大学薬学部開設」は4月29日（日）午後4時30分～5時15分で放送いたしました。ご意見をお願い致します。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員長 それでは、ご意見をお願いします。

委員 薬学部の開設と医大の移転に絞って番組を作られていたが、もう少し掘り下げて欲しかったというのが正直な感想です。医系総合大学の数が少ないという説明がありました。全国的にどの位あるのか、またどういうメリットがあるのか、最新医療における薬学の需要がどう変わってきているかなどを、他の地域の学校の事例、薬学が4年制から6年制に変わった背景など、周辺の動向についてももう少し取材を通して生の声をまとめていただくと良かったのではないかと思います。「誠の医療を目指して」という題ですが、そのためにはどのような特色のある教育をしていくのか、意識改革をするためにどのような工夫をしていくのかということが、残念ながらこの番組から読み取れなかったです。移転整備事業の話が最後に出てきましたが、最初に全体の話をしてから、薬学部の話をした方が親切ではなかったのではないかと思います。全体的に薬学部が開設されたことに対するご祝儀的な番組のように感じましたが、もう少し外の様子を取材して、岩手の新生医療総合大学の今後を見据えてナビゲートしていただける番組の方が良かったのではないかと思います。

委員 平成23年には、それぞれ順次移転していくという理事長の話ですが、移転先の矢巾だけでなく、現所在地の内丸の紹介ももう少しあっても良かったのではないかと思います。最初の方の沿革や建学精神の紹介、特に後藤新平さんの「諸君は偉大なる田舎医者たれ」と呼びかけたというエピソードは、初めて聞いて面白かったが、では「偉大なる田舎医者」は何なのか。岩手医大の卒業生の特色は、こういう所で働いていて、こういう人材がいるなど紹介して、それぞれに建学の精神を語らして「次の発展はこうあるべきなんだ」というふうにやっても良かったのではないかと思います。一番物足りなかったのは、何で薬学部かということが全体的に希薄で、薬学の研究者を育てたいのか、薬剤師が不足気味なので資格に目をつけてニーズを考えたのか、医系の総合大学を目指すという一環なのか、ということをもっと説得力のある説明が欲しかった。その他、先ほど出ましたが、ご祝儀的な番組というのは仕方がない部分はありますが、とは言えコマーシャルが3回にわたり「竣工おめでとうございます」というのは、くどかったのではないのでしょうか。

委員 以前に番組に出ていた教授の「薬学部開設の意味」という講演を聴いていたので、それに比べますと中身が希薄だったことが残念でした。特に 30 分過ぎてからの入学式と施設の説明が、かなり退屈でした。薬学部イコール薬局の調剤師養成のイメージしか出ていないのが残念だったと思います。前半部分で、オーダーメイド医療と膀胱ガンのワクチンなど出てきましたが、それと薬学の結びつきが見えて来なかった。それと CM の「祝・・・」は、気付かない人も分かってしまうので、もう少し考えた方が良かったと思います。

委員 岩手医科大学のキャンパスが矢巾に 4 月にオープンすること、また薬学部が新設されることから、非常に時宜を得た番組だと思いましたし、岩手医科大学のレベルの高さが良くわかりました。ただ、岩手医大だけに焦点を絞りすぎていると感じました。見ている側からすると、全国の医科大学や薬学部の現状や、数少ない医療系総合大学は、全国でどの位あるのかなども知りたいと思いましたし、また移転の背景として、内丸キャンパスにはどういう問題があったのか、そして何故矢巾に移転したのか、何故薬学部を新設したのかを合わせて放送してもらおうと非常に分かりやすかったと思いました。薬学部を 4 年制から 6 年制にした経緯や、薬学と医学の連携がどういった必要性があるのかなどを、合わせて掘り下げて貰うと良かったのではないかと思います。全体としては、インタビューやニュースで語らせることによって構成していて、番組自体が掘り下げる努力を少し怠った印象を受けました。

委員 移転と薬学部開設ということで、岩手医科大学の進むべき方向が出てくるのかと思って見ていました。「誠の医療・人間を創る」人間性・知識・技術の融合ということですが、そのことを在校生や新入生がどの程度理解しているのか伝わってきませんでした。人材育成をどのように学校として取り組もうとしているのか掘り下げて欲しかったと思います。全国でも数少ない医系総合大学ということですが、その数も分からない、それから医療系の実態が分からなかった。薬学部新設の話題ならば、これまで県内の薬学を目指した学生たちがどういう動向にあったかをフリップなどで示して貰うと良かったのではないかと。それから整備事業の全体像が分からない、移転と残る医療機能とが分からない。また、産婦人科医師の不足が言われていますが、そういうところに触れられていない。岩手医大の目指す方向や医師の確保や要請などの問題点も掘り下げると、厚みのある番組になったのではないかと思います。

委員 今までは岩手出身者が薬剤師になるのは、年間 30 人～50 人。その中で、岩手に戻ってくるのは十数人だったので、採用を確保するのが難しかったが、薬学部開設は期待しています。薬学が 6 年制に変わることによって、カリキュラムなどもどう変わるのか期待を持ってテレビを見ました。残念だったのは、総合大学として

の岩手医科大学のこれからの在り方が見えなかったこと、最後に「薬学部新設によって岩手の医療が新たな第一歩を踏み出しました」という言葉通りですが、そこまでの過程が薄かった。例えばスタッフについても、どういう所から集まっているのか、どういった学問に強い先生がいらっしゃるのか、特徴あるカリキュラムとは何かなど、もう少し詳しく説明して欲しかったと思います。2年後に薬事法の大きな改正が施行されることになり、それに向けて医療改革というものがありまして、医療全体がどんどんと変わっていくときです。薬剤師も地域の医療にどう携わっていくのかということが、課題になっています。6年制にした時の薬剤師の教育をどう変えていくのかというところを、やはり掘り下げていただきたかった。もう少し詳しく説明していただけると、視聴者が「自分の子どもを薬剤師にしよう」「自分が薬剤師になりたい」とか夢を持つことが出来て、質の高い薬剤師の育成に繋がっていくのではないのでしょうか。CMは不快でした。

委員 医大が出来てからの1世紀の歩みは、非常に参考になりました。ただ、番組としては、当たり障りがない無難な内容だったのではないかと思います。日本の薬学の現状、地域医療と医大薬学部とのこれから関わりが、もう少し抽出されていれば良かったのではないかと思います。医大当局や学生のインタビューばかりではなく、行政の考え方や住民目線での薬学部設置に対する期待・感想も入れてもらえば、さらに番組内容に厚みが増したのではないかと感じました。後藤新平の「諸君は偉大なる田舎医者たれ」という言葉が、創立者の想いと重なっているように感じて、非常に興味深く聞きました。最後に、薬学部創設にあたりまして、171人の新入生のうち、71人が県内出身ということですが、その学生を地域に定着させる試みを何かなされているかということをお尋ねしたいと思います。

委員 薬学部新設の構想、地鎮祭と時間を追って構成されていましたが、そういう意味で極めて単純で、内容に乏しいといわれても仕方がないと思いました。取材に基づいた報道番組としては、時間が長かったので間延びをしている感じを受けました。事実をきちんと報道したという価値はあると思いますが、一方社会派というような方から番組構成を考えてみると、県内における医師不足などの問題と今回医療総合大学を目指しますという方向を、視聴者としてどう考えればいいのか、消化不良でした。時間をかけて取材をしていた番組ですが、医大の学生向けの求人ビデオのような感じがしました。

委員 大学側の意気込み、情熱、高揚感が強いものがあつたのではないかと。それを番組として淡々と事実を紹介していると考えれば、これからのことについては、二の矢、三の矢で、1年後、6年後と追っていけば、皆様のご意見が生きてくると思います。薬学部の部長が「国家試験に全員合格すること。そして社員として求められる人材を作っていかなければならない」と言っていました。医療現場に從

事すると限らないということなのか、分からなかった。番組としては、淡々と伝えていた。医療系の総合大学とは何か、何を目指しているかについては、理事長や学長にもう少し話をうかがった方が良かったと思います。

- 委員長
- ・コマーシャルを含めて、ご祝儀的な番組に感じられた。岩手医大の意向が前面に出すぎていたのではないか。そのために内容的に乏しいのではないか。
 - ・テーマが、薬学か、岩手医大の全体なのか、地域医療をみるのか、全国の医療か、絞り込めていなかった。
 - ・移転地の矢巾町だけでなく、現所在地の内丸も取材に含めてもらった方が、地域医療とすると捉え方が良かったのではないか。
 - ・岩手医大については、整備事業の全体像が把握しきれなかった。
 - ・薬学部については、薬剤師を育成するのか、薬学の勉強するところなのか、絞り込めていなかった。
 - ・質問点としては、学生を地域に定着させる試みを何かなされているかということをお尋ねしたいと思います。

社 側 今回の番組は、岩手医大薬学部開設という柱がありまして、私学で県の医療を引っ張っているのは全国でもめずらしいケースでしたので、岩手医大の沿革と薬学部開設について絞った構成となりました。その結果として、他地域や、他の取り組みについては割愛した部分もあります。先ほどお話にもございましたとおり、開設した後の1年後、卒業する6年後など、今後岩手の医療に対してどのような役割を果たしていくのか引き続き取材する必要があるかと思います。移転整備については、薬学部が文科省から認可を受けたのは昨年11月で、それまでは学校側は名言を避けてきたのですが、今回は内丸に病院を残しつつも、ある程度の機能を備えたものを平成22年か23年頃には建てるとおっしゃっていたので、取材した意味があったのかと思います。

社 側 貴重なご意見・ご指摘ありがとうございます。番組のほとんどのシーンは、ニュースで取り上げたものの集大成ですが、ご指摘のように深さや、掘り下げ、テーマ設定、全国の中で今度の医療系総合大学がどの位置にあるかなどの視点が若干足りなかったのではないかと考えております。この件については、岩手医大の移転計画に沿って番組は作っていきたいと考えておりますし、ご指摘のように岩手にどの程度医療貢献ができるのかなどは、その都度のニュースでご紹介していきたいと思います。

委員長 他に何かありますでしょうか。では、事務局にお返しします。

社 側 それでは、これで5月度番組審議会を終了させていただきます。